

タブレットや携帯端末において弊社製品から作成される PDF ファイルを表示する際の注意点

近年、タブレットや携帯等モバイル端末において PDF を閲覧する機会が多くなってきております。

モバイル端末 (iOS や Android 等の非 WindowsOS) において弊社製品から PDF ファイルを閲覧する場合、PDF ファイルにフォントを埋め込まないと、PDF ファイルの見た目が崩れる可能性があります。

原因

製品のデフォルトの設定においては、PDF ファイル内部では、フォント名・フォントサイズなどのデータが格納されており、フォントファイル自体は存在していません。

通常 PDF ファイルを表示する場合、フォント名・フォントサイズなどのデータを閲覧する機器内のフォントファイルを利用し表示されています。

AdobeReader の場合は該当フォントが端末上に存在しない場合はそのフォントに近い代替フォントを表示させる機能(すべてのフォントの代替はしない)があります。

PC やモバイル端末においては同じフォントが存在しない場合があります。

(特に MS-Office ファイルにおいては MS 系のフォントを利用する機会が多いが MS 系のフォントは Windows のみに入っている)

PDF ファイルを表示した場合、フォントの幅等が違うものが参照され、対象ドキュメントの表示が崩れた状態となります。

対応策

フォント埋め込み済みの PDF ファイルの場合、参照フォント情報は PDF ファイル内のものから対応し、正確な表示となります。

モバイル端末で PDF ファイルを表示させる場合は、必ずフォントの埋め込み処理を行い、表示の崩れを防いでください。

製品毎の処理方法

<PDF 帳票作成ソフト IOWebDOC(アイオーウェブドック)>

フォント埋め込みオプション(有償オプション)を購入頂き、対象フォントの埋め込み設定を行ってください。

UNIX/Linux においては、利用/埋め込み可能なフォントを確認された上でご利用願います。

<PDF オートコンバータ EX>

付属の PDF コンバータの環境設定において対象フォントの埋め込み設定を行ってください。
(標準実装されております)

<PDF コンバータ>

環境設定において対象フォントの埋め込み設定を行ってください。
(標準実装されております)

注意点

- ・PDF にフォントを埋め込む場合、参照フォント領域が PDF に追加される為、出力される PDF ファイルのサイズが大きくなります。これは PDF ファイルの仕様となります。
どれくらいファイルサイズが大きくなるのかに関しては、ご評価を頂いてご確認を頂ければと思います。必要であれば評価版を提供させていただきます。
- ・PDF メイクアップ/PDF 製本工房/PDF れびゅーOCX にて、「PDF にテキストを追記した場合のみ」
上記製品においてテキストを追記した場合はフォントの埋め込みに対応致しておりません。
PDF メイクアップにおいては、別途有償となりますが回避方法がありますので、担当営業までお問い合わせください。